



台湾の略歴、および燃料品質の現状

台湾は20世紀後半における急速な工業化、経済成長により「アジアの4頭の虎」として、すなわちシンガポール、韓国、香港と共に、先進国経済への成長を遂げました。結果として、台湾は、世界銀行の分類では高収入、国際通貨基金の分類では先進国経済の範疇に属しており、技術開発、産業、とりわけ家庭用電化製品の分野において高く評価されています。

台湾は人口が密集した島で、殆ど天然資源に恵まれていないので、エネルギーの需要、とりわけ輸送に関しては原油の輸入に頼っています(電子力発電の55%は石炭が占めています)。元経済部管轄下エネルギー委員会を母体に、2004年に形成されたエネルギー局が、石油管理法を例に、広範囲でのエネルギー政策を導入しています。当該政策は石油業界の健全な開発、生産上の安全面の確保、石油および精油製品の販売促進、環境保護提供の確証、また経済開発による国民生活の向上が網羅されています。

台湾では最大規模の石油会社、中油有限公司(OPC)が石油業界の全ての部門でのシェアを握っています。CPCでは複合加工機能を有した自国の精油所が3箇所あり、一日に720,000バレル(b/d)の生産を誇っています。台塑石化公司の生産量は450,000b/dです。台湾の精油生産能力は現在自国の需要を上回っているため、その結果、台湾は純石油製品輸出元となりました。

台湾における燃油の品質は2つの基準で規制されています。一つ目は経済部標準検閲局が開発した技術基準における中華民国国家標準(CNS)です。二つ目の基準は行政院環境保護署(EPA)が発行したもので、環境および排出ガスの性能における、燃油品質を規制しています。

台湾地域にはユニークな面があり、性能の基準を制定するために、先ず米国カリフォルニア州の複合排気における雛形を採用しました。本雛形に入力する制限値はガソリンに含まれるベンジン、芳香族、オレフィン、硫黄、酸素、蒸気圧(RVP)、および蒸留点です。2007年の1月より、ガソリンの仕様が性能ベースより品質ベースの制限値に変更されたので、カリフォルニア州の雛形はもはや適用されていません。

ガソリンの品質ベースの仕様は還元硫黄の含有を最大50ppmまでに抑え、芳香族のレベルを最大36体積%、およびオレフィンを最大18体積%にまでそれぞれ抑えてあります。酸素の制限値は2.7重量%にまで増加し、RVPの制限値は60kPaにまで削減しています。表1はCNSおよび台湾EPA要請の現在のガソリン基準の一部抜粋を示しています。

本号の内容

台湾の略歴、および燃料品質の現状

欧州連合における燃料品質指令の採用

2010年バーレーンで開催された中近東PetroTech

ASTMインターナショナル2010年夏季会合の最新情報

燃料業界最新情報

2011年7月より、EPAはガソリンの芳香族のレベルを35体積%に制限することを要請しています。その後2012年の1月より、ガソリン燃料の硫黄の限界値を最大10ppmにまで削減します。2011年7月より、ディーゼル車燃料の硫黄含有量も最大10ppmにまで削減します。今年の2010年の12月より、台湾経済部は、バイオディーゼルの混合レベル要綱をB2に引き上げます(すなわちディーゼル燃料のバイオディーゼルは2体積%)。(p4に続く)

表1 - 台湾の現在のガソリン基準の一部抜粋

Specification Name	Standard	Test Method
RON, min (three grades)	92/95/98	CNS 12011
Sulphur, ppm, max	50	CNS 13877 CNS 14505
Lead, g/l, max	0.0013	CNS 12762
Benzene, vol.%, max	1	CNS 14298
Aromatics, vol.%, max	36	CNS 14298
Olefins, vol.%, max	18	CNS 3577
RVP @ 37.8°C, kPa, max	60	CNS 12012 CNS 14666
Oxygen, wt.%, max	2.7	CNS 14297
Oxygenates, Ethanol vol.%, max	3	
Distillation		
T _{10%} °C, max	70	CNS 1218
T _{50%} °C, max	121	CNS 1218
T _{90%} °C, max	190	CNS 1218
FBP °C, max	225	CNS 1218

出典:台湾経済部、国際燃料質量中心



注目の話題

欧州連合における燃料品質指令の採用

2009年4月欧州連合は、正式に「2009/30/EC欧州議会、評議会指令による98/70/ECのガソリン、ディーゼル、軽油に関する仕様、および温室効果ガス排出の監視、削減の過程の改訂、1999/32/EC評議会指令の内陸水路を行き交う船舶に使用される燃料の使用改訂、および93/12/EEC指令の撤回」と題された燃料品質指令(FQD)を採用しました。

本指令は、ガソリン、ディーゼルにおける品質要綱を大幅に変更し、ガソリン内の植物性エタノール、ディーゼル燃料内のバイオディーゼルの混合仕様の増加が許可されています。本指令は更に、2020年までに最低6%は輸送燃料の温室効果ガス(GHG)排出を削減することの義務も導入しています。FQDは、地球温暖化およびエネルギーの一括法案の中に盛り込まれた幅広い政策の概念で、2020年までに温室効果ガスの排出を20%削減し、エネルギー混合全体の20%を再生可能とし、エネルギーの効率性を20%向上させることをねらいとしています。

FQDによりまず、2010年末までに、各加盟国は本指令の条項に移行することになっています。しかしながら現時点では委員会にFQDにこの法令を導入する意図であるかを公式に報告したのはそのうち数カ国のみです。通常、加盟国は指令の技術的な部分(例、ガソリンおよびディーゼルの仕様)は、温室効果ガス削減に関する条項からは別扱いとします。ガソリン、ディーゼルの品質要綱は、通常技術要綱を介して(法令、もしくは条例と称される)導入されます。現在の所、FQDの移行を開始するために国家の法令を提案したのはチェコ共和国、エストニア、ドイツ、およびポーランド(政府が条項の採用を計画)です。



輸送燃料からの温室効果ガス排出の削減

FQDの条項7a(2)によりまず、燃料供給業者は2020年までに輸送燃料からの温室効果ガスの寿命を、2010年の基準値と比較して最低6%に削減する義務があります。本目標値は持続可能なバイオ燃料およびその他低酸素燃料の方法を使用することによって、達成できると見込まれています。

低酸素燃料から温室効果ガス排出を計算する方法は既にFQDの中に盛り込まれており、2020年を目標にした輸送における再生可能なエネルギーを10%にする構想内で用いられた計算方法と同じです。しかしながら他の燃料が関わっている限り、それらの温室効果ガスを計算する方法は委員会が設立し、各加盟国の専門家で構成される委員部がそれを受諾します。委員会は本計算方法における指令の、条項7a導入時との相違点の説明書きの草

案を既にまとめています。最終決定予定の計算方法は下記の法則に基づいていると見込まれています。

- 温室効果ガス排出の寿命は5つの段階に分かれており、抽出(温室効果ガス排出寿命の約5%)、原材料の輸送(1%)、精油(10%以下)、最終製品の輸送(1%)、消費(85%)、および
- める段階においては排出における負担量を決定するのが比較的易しいので(輸送、および消費)、委員会では規定値をいくつか提案する意向です(例、輸送方法別)。

抽出、および精油の段階です。最も適した抽出は、石油を個々の生産源泉からとった後(分なわち拡張された石油回収、燃焼、排出に、ど使用されたかを確定後、温室効果ガス排出量を)。これを行うには、欧州に石油を輸出している力を必要とします。もしこれが不可能な場合は、基準値を使用する方法が認められています。

精油に関しては、複数の製品が同時進行で製造されている複合的な手順を鑑みて、委員会では業者に対して温室効果ガス排出量を自社の業績に基づいて計算する方法を提供する意向です。また、最終決定は2010年の年末頃に採用されると見込まれています。

次の行動

全加盟国はFQDの採用を2010年末までに導入しなければなりません。日付の通知によりまず、政府は通常、FQDの燃料品質に関する要綱を、温室効果ガス削減における条項とは別扱いで導入します。実際のところ、輸送燃料の温室効果ガス排出削減の目標値を法令の中に取り入れたのはドイツのみです。他の国々は条項7aの導入に関する決定、それに対するやり取りを、委員会が公表するまで待機しています。

ガソリン、ディーゼルの品質における欧州の基準を法令に盛り込む国々は、欧州標準化委員会(CEN)がE10混合に関する最終的な基準を開発するまで待機しています。維持すべき手法手順を考慮に入れると、殆どの加盟国がFQDの導入を遅延すると見込まれ、国毎に定められたFQD内で制定された目標値の達成は、2011年の前半までには実現されないであろうと見込まれています。



2010年バーレーンで開催された中近東PetroTech

第7回の中近東国際原油および石油化学会議、展示会 (PetroTech 2010) が最近バーレーンで開催されました。今年のプログラムのテーマは「ダウンストリームでの課題: 財政、市場の変化、技術」でした。125社からなる、3,000人を超えるダウンストリームでの石油、およびガス業界の専門家がこの島国に集い、技術革新、市場における商業機会、運営上での効率性、信頼性、安全性の向上、および品質に関する問題点についての啓蒙が行われました。本会議では15の小会議の中で70以上のプレゼンテーション、および10数人程の知識を求めているスピーカーによる全体会議での取り組みが行われました。年一度開催の初回プログラムの主な要点は下記の通りです。

バーレーン国の石油、ガス機構大臣である、H.E.アブダルフセイン・ビン・アリ・マーザ博士が本会議の開催にあたっての特別挨拶を告げました。同大臣は、原油の価格は相変わらず変動が激しく原油における利益率も厳しい中、長期的に見た将来的傾向、原油の需要は様々な外的要因に左右し得ると述べました。それらの外的要因とは下記の通りです。

- 中国、インドからの高い需要率の継続、
- 核エネルギー導入の拡張、
- 新興国が採用した大量輸送戦略、
- 液体天然ガス (LNG) の役割増加、
- バイオ燃料に関する委託統治の採用、
- エネルギー効率の良い、およびハイブリッド車の受諾、
- 輸送燃料品質改善、および
- ナイジェリア、ベネズエラ、イラク、およびアンゴラからの供給計画

大臣は更に、バーレーンの原油基本計画プロジェクトは、地球温暖化におけるエネルギー源の影響を削減するため、石油、ガスにおける環境上での持続性を、実現可能で、長期的なクリーンエネルギー供給元として向上させることについても触れました。炭素補足およびその貯蔵 (CCS) は、当該持続性を達成するための主要な技術の一つです。もう一つの取組みは、新しいパイプラインのプロジェクトにより原油の供給を最適化し、新しい、最新技術の、高価値の潤滑油工場を建設し、現在の原油インフラの信頼性を向上させることによって、競争力のある価格を維持することです。上述の戦略に取り組む傍らでも、環境への影響は最小限に留めることの必要性も再度強調されました。

世界的な不況から回復しつつある中、将来の世界経済成長率は、年間3.0%から4.0%の間と見込まれています。代替エネルギー源は原油製品の需要に影響を与えますが、需要は今後も原油を基点とするガソリン、および中部留分により補われます。

エクソンモービル・ケミカル社社長のスティーブ・ブライヤ氏は、「商業サイクルとそれ以上に対する、石油化学における課題」に関する基調演説を行いました。同氏は会議に参加した主催者、および各企業は安全で、優秀な運営、および最高の慣習を行っていることと賞賛しました。これらは石油、ガス業界において、持続的な成功を維持するための基本となり得ます。同氏は更に、成熟しているOECDの加盟国は、2030年までに50%以上、一方非OECD加盟国はこれ

の3倍のペースで成長するであろうと述べました。エネルギー、燃料、石油化学業界は、先述の経済発展

に伴って富を増し、生活水準も向上させていく事が見込まれています。同氏は本経済発展に関わる商業サイクルにおける重大な、長期的な課題、すなわち原料供給、エネルギーの効率性、および自由貿易に関しても語りました。

カタール石油化学会社、ダウンストリーム・ベンチャー理事会のハッサン・ハサウン博士は、「ガソリンの品質および生産、手順、対、標準要綱」について語りました。同博士はいくつかの特性、生産技術、混合材料、およびガソリン品質に影響する環境面での要綱について調査しています。硫黄削減プロセスはオクタン値 (RON) を削減し、また、芳香族、およびオレフィンも削減されます。炭素放出に関する懸念により、燃料に水素、炭素の割合が高まることとなります。ガソリン混合成分の特性に関する考察では、酸素化された物質、およびアルキレートのみが品質に関しての弱点が無いことを観察しています。同博士は更に、MTBEがガソリンに近い高エネルギー値を有しており、多くのバイオ燃料使用に特有の課題である、「食物、対、燃料」の概念には及ばないと語りました。

サウジアラビア基本産業会社 (SABIC) 最高執行役員であるモハメットH.アルマディ氏は、「代替エネルギー/化石燃料における、計画済み共存」に対する基調演説を行いました。米国連邦エネルギー情報局 (EIA) では、世界のエネルギーの需要は年間1.5%の割合で増加し、その増加のうちの90%が非OECD加盟国からであると見込まれています。基本的な資源である石炭、石油、ガスは劣化していくので、核、水素、および他の再生可能な代替エネルギーの開発が要求されています。同氏は一番急速にエネルギーの需要が拡大しているのは輸送分野で、現在世界中の輸送分野の98%は石油ベースの燃料が使用されています。従来に無い、すなわちバッテリーで動く車両、ハイブリッド車、差込式電力の使用は拡大しており、2030年までの新車を代表するものになると見込まれています (EIAの見解)。本拡販における唯一の課題は、コストを削減して、一般消費者の購入、使用を推奨することです。同氏は再生可能なエネルギーは、最高のエネルギー節約率を持続すると述べています。アルマディ氏は、中近東においての代替エネルギー開発の例をいくつか示しました。

PetroTech 2010は石油、ガス業界とアイデアを共有し、最新の開発に関して学び、技術、および戦略情報を自国に持ち帰り、世界中の消費者に向けて、継続したエネルギー供給を確実にするための、幅広い機会を提供するものとなりました。





ASTMインターナショナル2010年夏季会合の最新情報

ASTMインターナショナル(元米国試験材料協会)は、夏季会合を米国のカンザス州で執り行いました。ASTM D02委員会では、石油製品、および潤滑油の仕様、および試験方法を取り扱っています。D02委員会は2,200人もの業界のプロ、および技術の専門家から構成される会員で成り立っており、法的管轄区域内に725以上もの標準が、ASTM標準年報の5巻内にて既に出版されています(05.01から05.05巻まで)。これらの標準は、石油製品および潤滑油の標準化に関する全ての側面において、卓越した役割を果たしており、今後も継続していくものです。国、および政府機関の多くがASTM基準、手法、指針を、自国の法規基準の参考として採用しています。ASTM仕様を参考用として使用することによって、燃油業界にとって品質の確保、維持、および市場に出回っている製品の流用可能性を向上させる上での支援となります。

D02委員会内には、150もの小委員会、作業グループがあります。2010年ASTM夏季プログラムの間、数多くのD02委員会、小委員会の会合が行われました。下記はガソリン、およびディーゼル燃料に関する主要な議論、および結果をまとめたものです。

D02委員会では、複数の試験方法を検査しており、再生可能な燃料基準(RFS)プログラムの拡張に関連するので、米国における改質ガソリンにおける顕著な最新事項も考慮に入れています。再生可能なバイオエタノールのガソリン混合率を高めるための、EPAが定めた許容予測範囲での増加しつつある委託統治により、洗浄剤の添加物の証明書要綱も見直す必要があります。

ASTM委員会では、高オクタン燃料試験方法変更開発における、現在進行中の取組みが行われており、EPAが高度のバイオ燃料混合を承認すれば、これが市場に出回る可能性があります。EPAが判断を下すまで、同委員会では最終的な奨励事項は延期しています。尚、米国石油協会(API)では、現在10体積%まで許可されている上述のバイオエタノール混合方法を理解するための調査を行っています。揮発性はその性質故に主要な懸念なので、様々な、具体的な混合容量による、排出、および車両の材料に対する影響が調査されています。APIの作業では現在の所、蒸

台湾の略歴、および燃料品質の現状

(p1からの続き)

人口の密集、および多くの工業施設が立ち並ぶ故、台湾では現在大気汚染の問題に直面しています。バイクからの排気、特に2工程サイクルエンジンを使用しているスクーターが都市部での大気汚染の主な根源となっています。最近の登録データによりすると、道路を走行する車両の68%はバイクで、自動車は27%となっています。

大気汚染防止法では、政府の様々なレベルに権限委譲し、大気質標準を制定し、これへの準拠を監視させるようにしています。2000年から2008年の大気質の品質は安定した、ゆるやかな大気における改善を示しています。全体的な大気質の改善を支援するために、台湾のEPAでは空気の質が好ましくない状態を意味する公害標準値が100を超える日を減少させる目標を掲げました。

気圧10体積%の混合レベルでは下降し、容量が増すにつれて、蒸気圧の変更率は緩和する傾向にあることが示されています。

ガソリン仕様においては、シリコンの試験方法が現在開発中のため、委員会が承認するまでの間、シリコン含有に関する警告文書を含めています。

エチル・ターシャリー・ブチル・エーテル(ETBE)を航空用火点火エンジン燃料に混合する際の仕様も開発されています。D02委員会の作業項目(WK16902)は、当該仕様変更を監視するために設立されました。

新しい作業部隊は、航空用の超低度鉛レベルのガソリンの採用を調査するために作られました。鉛添加物入りのガソリンの使用を禁止した多くの国でも、一般的な航空用のガソリンでは例外的に使用が許可されています。鉛レベルの基準を満たしていない場合の全体的な大気質監視の結果、鉛使用の航空用ガソリンを使用し続けることの懸念が浮上しました。D02の作業部隊では、航空用ガソリン仕様に基づいた現在の階級における、新しい最低限の鉛仕様を検討しています。仕様への変更は、非達成分野において、準拠プログラムを修正し、これにより大気中への鉛レベルを更に落とし、有害鉛粒子の人体への影響を緩和させます。

D02委員会では、バイオディーゼル燃料、ジェット燃料、E85燃料(85体積%のエタノールと、15体積%のガソリンの混合)試験手法および仕様の変更にも取り組んでいます。米国テキサス州の国際燃料品質センターの職員が、ASTMインターナショナルのD02委員会会議に出席しています。本会議の更なる詳細な結果に関しては、IFQC、電話+1-713-260-6474、もしくはウェブサイトwww.ifqc.orgをご利用下さい。

大気質改善目標はPSI-100(もしくはそれを超える)の日を2011年までに2%未満に減少させ、2016年までに1.5%未満までに減少させることです。車輛、生産施設(産業)、建設現場での廃棄物削減に対する公害防止戦略も導入されました。

台湾のここ数十年間の経済成長は非常に目覚しく、また更なる成長も見込まれています。従って、本成長には環境保全に関する課題が付随することになります。しかしながら、大気汚染問題に打ち勝つべく本課題を克服するための強固な燃料品質基準、および他の制限事項が既に採用されています。



燃料業界最新情報

米国EPA、伊国からの疑わしいテストデー タのため査定を一時停止

米国環境保護庁(EPA)は、イタリアのラマジニ研究所によって行われた追加再調査研究の内4つの化学物質における、進行中の査定を一時停止することを発表しました。該当する化学物質はメタノール、MTBE、ETBE、およびアクリロニトリルです。米国国家毒性プログラム(NTP)の病理学者のチームが同研究所を訪れ、当該化学物質における毒性面での研究結果を検査しました。当該結果の部分的な調査、監査におけるNTPの報告によりますと、研究結論全体において、支持、不支持の結論に至るまで、もう少し再調査が必要であると結論付けています。ここ数年の間、複数の政府機関、および外部の病理学専門家から、手法、動物群隊の保持、および施設内での研究のための使用に関して指摘を受け、同研究所内でデータを再調査する試みが行われておりました。EPAでは、当該行為に対して「頻繁な警告に基づいた行動で、当庁の科学的な査定がもっとも適切で、健全な化学の基本に戻ることを実証するため」と述べています。EPAは、NTPの同研究所における再調査により、同研究所の研究者とは、ある一定の病理学と異なる結果が出たことが確認されています。これらの相違点のため、EPAではこれ以上化学物質の査定を進める前に、ラマジニ研究所での徹底的な再調査を行う必要性を認めています。EPAでは、更なる再調査に必要な同研究所のデータにいつアクセスできるのか、またアクセス自体が可能か否かについては明らかにしていません。

アゼルバイジャンにおける新たな排出およ び燃料品質基準

2010年7月1日、アゼルバイジャンでは車輛、およびそれに関わる燃料品質要綱に対して、Euro-2相当の基準が施行されたことと報告されています。クリーン燃料の導入、および更に厳しい排出要綱に関する議論は既に数年前から始まっていた。同政府は7月1日に、最初の施行日は2010年の2月中旬となることを発表しました。これにより、根本的に、Euro-2排出基準に準拠していない車輛の輸入の禁止、および品質基準を満たしていない燃料の輸入も禁止されます。尚、本決定はアゼルバイジャン国内を既に走行している車輛には適用されません。

首都のバクでは、約80%の車輛がEuro-2排出基準レベル、もしくはそれより古いもので、しかしながら、首都以外では当該シェアは殆ど100%であると推測されています。当規制は法律施行日後に輸入された車輛のみに適用されるので、車輛全体における変化がもたらされるまでは暫く時間がかかります。

燃料品質要綱における改善面では、燃料供給に遅延が生じないことが期待されています。アゼルバイジャンの自国の精油所ではEuro-2品質仕様を満たしている燃油の供給が可能です。更なる施設の現代化は現在進行中です。アゼルバイジャンの国営石油企業では、Euro-3相当の燃料生産を、2011年の下旬ごろ、もしくは2012年の初旬頃に開始する予定です。しかしながら政府は、新しい技術基準が、高度な品質燃料性質に対応して制定されるか否かに関しては発表しておりません。

カナダ保健省、マンガンを吸入時の人体へ の健康上の影響を推察



カナダ保健省は最近マンガ

ンの人体の健康における危険性の査定に関して、口径で少量を摂取した時よりも、呼吸により大量を吸入、もしくは体内の組織内に蓄積した方が、リスクが高いことを発表しました。カナダ保健省によりますと、非常に少量の割合のマンガンを口径(口からの摂取)で体内に入った時は、組織的循環内に送られます。一方で、マンガンを吸入され、鼻腔組織に蓄積されると、嗅覚系から直接脳の神経中枢に送られます。ここは神経組織と外部環境の直接的導管として機能している器官です。

マンガン(CAS番号7439-96-5)は、微量で生物的に不可欠な無機物ですが、大量摂取された場合は人体へのかなり強い毒性が書類上で証明されています。マンガンはいくつかの器官組織、すなわち生殖、および呼吸組織に有毒とされていますが、最も肝心な対象器官は神経中枢組織です。中量摂取された場合、亜臨床的な神経学機能、細かな運動制御、しびれ、記憶および認知能力を悪化させ、脳の脳幹神経節に恒常的に障害をもたらすとされています。

本査定において、カナダ保健省は吸入マンガンの濃度の新しい参照値をPM2.5時には0.05 µg/m³と決定しました。本数値は、疾病に敏感な少数民族を含め、一般的な国民全体が著しい症状無しに吸入可能な値となります。カナダ保健省の査定レポートは、<http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/air/manganese-eng.php>より入手可能です。

インドネシアにおける大気質の低下

気象気候地理機関(BMKG)によりますと、インドネシアの殆どの都市での大気質は昨年より低下しています。BMKGは煤塵、PM10、NO₂、SO₂、およびオゾン層レベルを監視することにより、政府の全体的な大気基準に準拠する決定を出しました。同機関はPM10の濃度がバンドン、パレンバン、タンゲラン、およびジャカルタの4都市において、政府が設定した健康上好ましくないレベルに達していたことを報告しました。他の大気質に関する制限値もしばしば、同年内では超えていました。インドネシアの環境省では、都市の路上で大幅に増えたバイクの数が大気汚染レベルに悪影響を及ぼしたと信じています。

環境省では、大気質の分野もアディプラ賞の一部となり、環境改善を達成した都市は受賞の対象になることを発表しました。その他の大気質に関する取組みは、主に輸送部門に起因する、都市の大気汚染、および温室効果ガス排出を奨励していくことです。同省では持続可能な輸送システムが大気汚染を削減する上での鍵となると訴えました。政府は現在国家戦略、および都市の大気質改善が、地元司法管轄の効率の良い大気汚染防止政策の開発指針に基づいた行動計画の策定に取り組んでいます。

現在の10体積%から15体積%への引き上げを認可するかの判断を延期しました。2009年の3月にエタノール業界グループであるグローブ・エナジーはEPAに対して、高混合レベルの免責承認を要請した嘆願書を提出しています。米国の大気汚染防止法(CAA)の条項により、EPAはエタノールの混合率を高めるための燃料基準における免責事項を付与する前に、技術、性能、排出、互換性情報を査定することになっています。EPAは2010年7月に本決定を出す予定となっており(既に当初の予定であった2009年12月からの遅延)、しかしながら自動車製造業者より、高エタノール配合では、特に古いモデルのエンジンに破損をもたらす旨の懸念が寄せられています。米国に基点を置く自動車製造者連合は、E15混合では古いエンジンの性能を弱めると信じています。他の小規模エンジンメーカー、および海洋船舶の関係者も同様にその影響に関して懸念を抱いています。更に、給油所でも、制限付の免責事項が新しい車輻にのみ適用されるのであれば、誤った給油を防止するため、ポンプの改正、新しいポンプの購入、通知、および管理が必要となってきます。

現在2001年に、増加されたエタノール混合の車輻モデルへの影響が調査されている段階です。車輻エンジン、および構成部品の試験は、連邦政府の研究所、および自動車用オイル研究グループとの共同でなされています。今年の初旬にEPAへ報告された暫定的結果の内容は混在しており、自動車オイル研究グループはEPAに対して、今年下旬頃明らかになる更なる結果が出るまで待機するよう推奨しています。EPAはグローブ・エナジーに対して、研究は現在最終決定が出る途中段階なので、免責事項に関しては、今年の下旬まで明らかにならない旨を通知しました。



関(IEA)が2009年に発表したデータにより、中国が、米国を追抜き、最大のエネルギー消費国になると判定しました。2009年に列挙されたIEAの情報により、中国のエネルギー消費量は22億5200万トン相当(toe)で、一方米国では21億7000万トン相当でした。IEAの報告書は石油、天然ガス、石炭、核、および再生可能なものを含む、多様な資源にまた

がった、全てのエネルギー消費の総計を基準化したものです。IEAにより、同国の経済成長により、エネルギーの需要がここ10年で2倍に増加しました。その逆に、2009年の世界経済不況が米国のエネルギー需要を引き下げ、その結果中国を押し上げる結果となったと見込まれています。しかしながら中国は同国のIEAのデータに関して、疑問を投げかけています。新華社通信により、中国の国営統計局がまとめた報告では、昨年のエネルギー消費量は21億3200万toeで、IEAの数値より低くなっています。2009年全体の消費量に関わらず、平均的な中国の国民のエネルギー使用量は、米国の平均的な消費者の約5分の1となっています。